

# 琉球大学学術リポジトリ

## 1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897</a>

C

C



112

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政外外儀官  
務次典房  
官官審審長長  
儀書文会管給  
総人電厚計

参調折企  
参領旅移

参地中東  
参北北保  
参一ニ  
参西東洋  
参西東

参審近ア  
次総経国大

参賛統三  
参政技二  
参一理  
参給協規  
参政経科  
軍社専  
参道内外  
一一

総番号(TA) 50277  
69年 11月 5日 21時 55分 米 国 省 長  
69年 11月 6日 12時 23分 本 省 長

外務大臣殿 吉野 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ及びせん維問題(内話)

第35/5号 特秘 至急(ゆう先処理)

シモダ大使へ

5日ゆう他用でこん談したフインがヨシノに内話するところ次の通り。何ら御参考まで。

1. マイヤー大使に帰米前サトウ総理にお会いし。訪米に関する最終打ち合わせをするよう訓令している。おそろく9日ごろその運びとなると思われるが、マイヤー大使より滞華中の日程。特にニクソン大統領との会談議題をもう一度復しゆう申し上げることとなる。会談議題はオキナワについては核の処理問題、返かんに伴う補償の問題(それまでもし話がついていないならば)。その他の問題ということになるが。このその他の中には貿易、資本の自由化とせん維規制問題が含まれることとなろう。この為目下大統領に読んでもらうBRIEFING PAPERを作成中であるが。オキナワについては近く大統領がホワイト・ハウスの朝食会にても両院の領しゆうその他LEADER格の議

外務省

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

員を10人位招待し、大統領より直接説明してもらうこととなつている。

2. 核問題についてはその後も何ら進展はないが、前記のマイヤー大使総理訪問の際マイヤーより「核をオキナワよりとり除くのはよいが。いざ一大事というときに日本はどうするか」という趣旨の質問をし。その回答如何で本問題の解決の方法が示さされると思う。即ち緊急持ちこみをどう表現するかということであり。オガサワラのような秘密協定も一つの方法であるが。これも100%満足すべきものではない。あるいは共同声明にこのような緊急の場合には米軍があらゆる体容の戦とう行為を行いうるよう合意するというような表現を提案するかも知れない。以上は事務局の考え方であり。これもいずれニクソン大統領に上げることとなつているが。ニクソン大統領は御承知のとおり日本に対してPOSITIVEであるので。サトウ総理との会談の際このような表現をふくめてどういう決断を下されるか分らない。

いずれにせよ核の問題はそれ自身としても何らかの結論に到達しなければならぬと共に。オキナワ問題全体とのPACKAGEとしてもとり扱われる。

3. せん維問題は会談の話題とならざるを得ない。その際現在貴方がトリダイスと話しているラインで事態が進ん

外務省

特

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

極秘

でおれば両首のうの本件に関する話し合いは比較的スムーズにゆくと思われる。ジョンソン次官もこれを心配しぜひ本件が予定のラインで進ちよくするよう関係者に指示している。うんぬん。

リ)